

トルコ共和国
人口教育促進プロジェクト (II)
巡回指導調査団報告書

平成7年12月

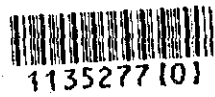
JICA LIBRARY



国際協力事業団
医療協力部

JICA
314
98.2
MCN
LIBRARY

医協二
J R
96-27



1135277101

トルコ共和国
人口教育促進プロジェクト（Ⅱ）
巡回指導調査団報告書

平成7年12月

国際協力事業団
医療協力部

序 文

トルコ共和国人口教育促進プロジェクト (II) は、平成 5 年 11 月から 5 年間の協力期間において、地域ニーズに基づく IEC (Information, Education, Communication) 活動モデル作りの実施及び全国レベルへの活動拡大を通じて同国の人口教育普及活動の強化に貢献することを目的として協力が開始されました。

このたび、協力開始後 2 年余りの時点でこれまでの活動内容を確認し、本プロジェクトに関わる専門家とカウンターパートに必要な助言を提供し、また本プロジェクト当初の目標を達成するために必要な事項をトルコ側関係者と協議するため、国際協力事業団は、平成 7 年 12 月 11 日から 12 月 24 日までの日程で国際基督教大学教授中野照海氏を団長として、巡回指導調査団を派遣しました。本報告書は、上記調査団の調査結果を取り纏めたものです。ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表しますと共に、本プロジェクトの実施運営に対しまして、更なるご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成 7 年 12 月

国際協力事業団

医療協力部長

平良 専純



アンカラ保健省にて



ミニッツ署名



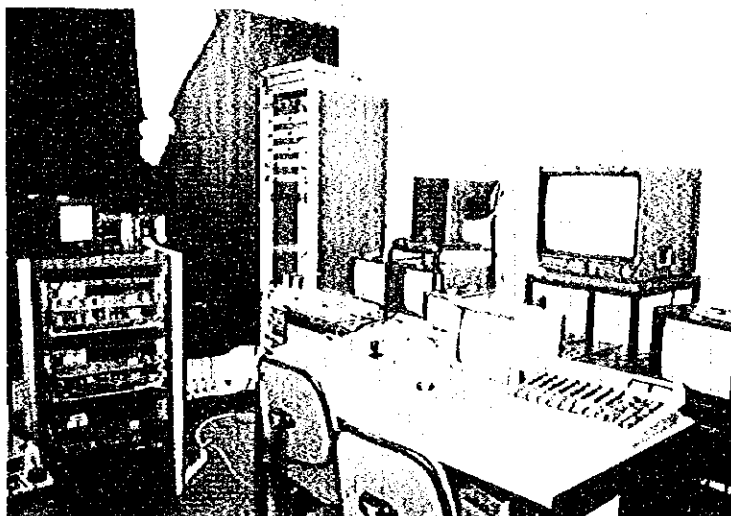
シヴァス・コミュニケーションセンター正面（世銀の援助により建設）



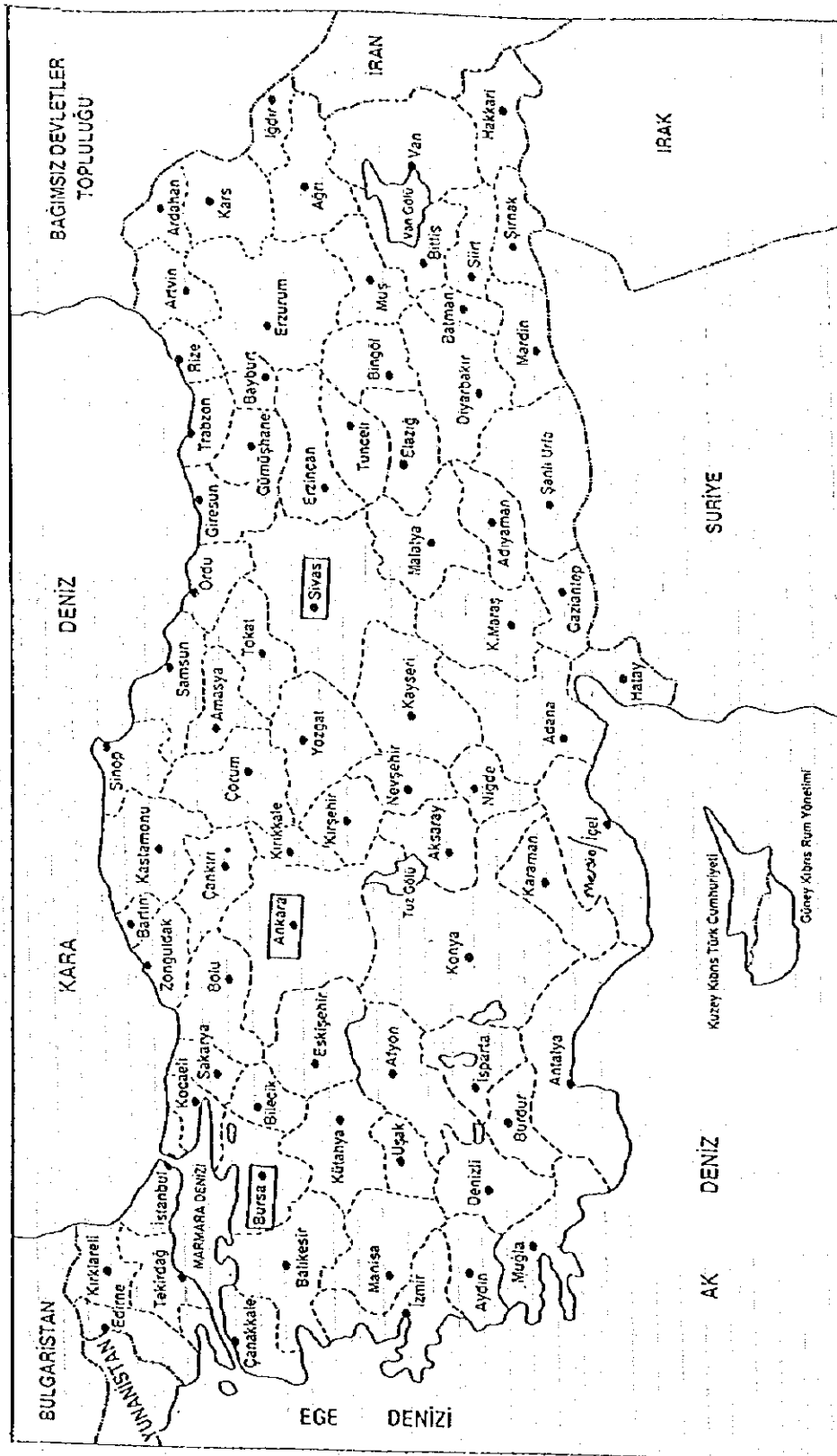
シヴァスコミュニケーションセンター
セミナーホール



ブルサ・コミュニケーションセンター
(建築中)



ブルサ・プロジェクトオフィス



地図 トルコ共和国

目 次

序 文
写 真
地 図

1. 巡回指導調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	1
1-4 主要面談者	3
2. 総括報告	5
3. 実施計画の進捗状況	8
3-1 IEC 分野調査報告	8
3-2 専門家派遣	10
3-3 研修員受け入れ	11
4. 合同委員会の協議結果	12
附属資料	
① ミニッツ	15

1. 巡回指導調査団の派遣

1-1 巡回指導調査団の経緯と目的

トルコ共和国（以下、トルコと略す）の年平均人口増加率は2.4%（1960-1992）と高く、1992年現在の5800万の人口は、2025年には倍増すると予想されている。同国では国家開発計画を効果的に実施するという観点から人口管理の重要性が早くから認識されており、1963年以降種々の家族計画事業が実施されている。

このような状況を背景として同政府は我が国に対し、家族計画と母子保健活動強化のための協力を要請越した。これを受けて保健省所管のアンカラ・コミュニケーション・センターの拡充及び教材・キャンペーン資料等の作成、教育広報活動促進のプロジェクト方式技術協力が1988年11月より5年間実施された。

上記プロジェクト（フェーズI）は1993年の日本・トルコ双方による合同評価によりその目的をほぼ達成したと評価されたが、当初意図したIEC活動に関する「実験地区での先導的試み」は湾岸戦争等種々の事情から実施に至らなかった。また、地域性の高い問題に対しては、その地域のニーズに合った教材の作成、活用の方法、指導者の研修が必要であることが当地方の保健部の関係者より指摘された。

そのため、フェーズIの成果を生かしながら、地域ニーズに基づくIEC活動モデル作りを実施し、人口教育普及活動の強化に寄与し、ひいてはトルコ側による全国レベルでの拡大を目指し、1993年11月より5年間のフェーズIIを開始した。

フェーズIIにおいては、アンカラ・コミュニケーション・センターとの協力を保ちつつ、ブルサ（都市型）及び東部地域（農村型）の2つのパイロットエリアにおいてIEC普及活動のモデルを確立するために次の活動を行うこととしている。

- 1 パイロットエリアにおける普及活動の実態調査及びニーズ調査
- 2 地域ニーズにあった普及教材の開発
- 3 普及活動従事者のIEC研修

（データはUNDP人間開発報告書1994年より）

本プロジェクトは協力開始後ほぼ2年が経過し、アンカラのサイトにおける視聴覚教材作成等の活動は順調に進んでいる一方、当初1993年11月ごろ完成予定であったブルサ・コミュニケーション・センターの建設遅延（トルコ側負担）、東部地域での治安状況による農村牧畜型パイロットエリア再選定の必要等の問題も生じた。

今回の調査団では、プロジェクト発足以降の活動進捗状況の把握、問題点の検討を速やかに行うとともに、R/D、M/M（1994年12月計画打ち合わせ調査団）に基づき、今後の協力計画の詳細について、相手国機関と協議を行うとともに、トルコ側協力実施体制についての確認を行う。特に東部地域のパイロットエリアについては、M/Mにシヴァスをパイロットエリアとして記載すると共に、IEC調査の結果を基に、活動計画詳細を策定する。

1-2 調査団の構成

	担 当	氏 名	所 属
団長	総括	中野 照海	国際基督教大学教育学研究科教授
団員	視聴覚教育	岡部 守男	日本視聴覚教育協会事務局長
団員	IEC	内海 成治	国際協力事業団医療協力専門員
団員	協力企画	米林 達郎	国際協力事業団医療協力部医療協力第二課長
団員	協力計画	平井 利奈	国際協力事業団医療協力部計画課職員

1-3 調査日程

日 順	日 時	移動及び業務
第1日	12月11日(月)	成田 (NH209.12:00) →フランクフルト (16:20)
第2日	12月12日(火)	フランクフルト (LH3834.12:55) →アンカラ (17:15)
第3日	12月13日(水)	9:30 在トルコ JICA 事務所表敬 10:30 アンカラ・コミュニケーション・センター視察及び協議 プロジェクト専門家との打ち合わせ 16:30 米林団員、平井団員 生物製剤品質管理プロジェクト視察及び協議
第4日	12月14日(木)	8:30 移動アンカラ→シヴァス (車両)
第5日	12月15日(金)	9:00 シヴァス保健部長表敬 9:30 シヴァス保健部関係者との協議 10:30 セミナーホール視察 11:30 Mimar Sinan Training and Communication Center 視察 12:30 シヴァス保健部主催昼食会 14:30 シヴァス県知事表敬
第6日	12月16日(土)	9:00 移動シヴァス→アンカラ (車両) 中野団長、岡部団員 成田 (NH209.12:00) →フランクフルト (16:20)
第7日	12月17日(日)	資料整理 中野団長、岡部団員 フランクフルト (LH383.12:55) →アンカラ (17:15)

日 順	日 時	移動及び業務
第8日	12月18日(月)	9:30 保健省母子保健家族計画局長表敬 10:00 保健省次官補表敬 10:30 保健省次官表敬 11:00 合同委員会 12:30 保健省母子保健家族計画局主催昼食会 14:00 合同委員会 プロジェクト専門家との打合せ
第9日	12月19日(火)	11:00 ミニッツ署名・交換 14:00 在トルコ JICA 事務所調査報告 15:00 在トルコ日本大使館表敬及び調査報告
第10日	12月20日(水)	8:00 移動アンカラ→ブルサ(車両) 14:00 ブルサ・コミュニケーション・センター(建設中)視察 15:00 プロジェクトオフィスにて打合せ
第11日	12月21日(木)	8:30 移動ブルサ→イスタンブール(車両及びフェリー)
第12日	12月22日(金)	移動イスタンブール(BA677.14:50)→ロンドン(16:55)
第13日	12月23日(土)	移動ロンドン(NH202.16:55)→
第14日	12月24日(日)	→成田(13:35)

1-4 主要面談者

(1) 保健省

Dr. Dorgan BARAN (Health Director)

Mr. Ecz. Omer YILDIZ (Acting Under-secretary)

Prof. Dr. Turgut IMIR (Deputy Under-secretary)

(2) 保健省母子保健家族計画局

Prof. Dr. Ayse AKIN (General Director)

Dr. Mehmet Ali BILIKER (Deputy General Director)

Mr. H. Ibrahim SOMYUREK (Department Head)

Ms. Nuran USTUNOGLU (Department Head)

Mr. Sinasi CZGUN (Branch Director)

Dr. Ruhi Selcuk TABAK (Responsible of Communication Center)

- (3) シヴァス県庁
 Mr. Avdia GUCLU (Governor)
 Mr. Mustafa UNLUSOY (Deputy Governor)
- (4) シヴァス県保健部
 Dr. Hayati BASEL (Health Director)
 Mr. Hulusi SAHIN (Branch Director of Education)
 Dr. Cahit YAGMUR (Provincial Education Res.)
- (5) ブルサ県保健部
 Dr. S. Ergun SENEL (Health Director)
 Dr. Nuri BERKEM (Responsible of Administration)
 Dr. Fatih AYDIN (Technical Res.)
 Dr. M. Faysal OZBEN (IEC Counter-part)
 Dr. Murat GONCU (DTP Counter-part)
- (6) 在トルコ日本国大使館
 都甲 岳洋 特命全権大使
 三木 秀一 一等書記官
- (7) プロジェクト専門家 (トルコ人口教育促進プロジェクト (II))
 上野 重喜
 角谷 紳一
 丹野かほる
 馬部 典佳
 知念 潤
- (8) プロジェクト専門家 (トルコ生物製剤品質管理プロジェクト)
 片岡 哲朗
 横井 健二
 岩佐 三郎
 石田 説面
 廉野 光明
- (9) レフィックサイダム衛生研究所
 オゼル所長
 Ahmet 所員

2. 総括報告

今回の巡回指導調査の目的は、本プロジェクトに関して双方が合意した1993年9月23日の議事録と、1994年12月14日の議事録に既に記載されている活動の進捗状況を双方で確認するとともに、活動の修正などが必要であれば、双方でこれらを吟味することであった。

トルコ人口教育促進プロジェクトは、人口増加の低減を図ることを目的としているが、フェーズIIでは、特に①プロジェクト第1期に設置した保健省アンカラ・コミュニケーション・センターとの協力を保ちつつ、②先導的実験地域での母子保健・家族計画のためのIEC活動を推進し、そして、③先導的実験地区における母子保健・家族計画活動からの経験と知見とをトルコの他の地域への移転を図ること、である。

上記のねらいを達成するために、調査団は、現地での活動を視察して、活動の進捗状況を把握するとともに、以下の事項の協議を行った。

(1) アンカラ・コミュニケーション・センター

アンカラ・コミュニケーション・センターは、センター自体も重要であるが、当プロジェクト推進のための中核センターとして、プロジェクト全体を調整する機能も重要である。このために、センター自体の製作活動などとともに、プロジェクト活動が進められる3地区の調整機能に係わる事項も討議の対象となった。

当センターの活動に関しては、①ビデオ教材の製作、②訓練/研修、③印刷資料の製作、④スライドとOHP資料、及び⑤国内団体と国際機関との協力などの実際は満足すべき状態にあるが、これらの活動が一層促進されるように努力する。

当センターは、当プロジェクトの中核組織として、ブルサ実験地区とシヴァス実験地区で実施される活動を支援し、調整する役割が重要である。この役割に関して、日本側とトルコ側による討議、さらに、トルコ内部の保健省母子保健家族計画局/当センターの代表者とブルサ/シヴァス実験地区の代表者もアンカラに会して、活動の分担と調整に関わる事項を討議し、必要な合意に達した。

(2) 実験地区-1: ブルサ県での活動の進捗状況

当実験地区の活動の中心となるブルサ・コミュニケーション・センターは、鉄筋コンクリート3階建ての建物で、旧ウルダ大学医学部跡地に建設中である。視察時には建物が完成し、内装工事の一部が終わっていたが、さらに完成に向かって進められていた。このセンターは、当初の規模よりもさらに大きくなり、そのために、完成がさらに遅れる結果となっている。これに加えて、財政的な困難も伴い、1995年の夏期の完成が遅れ1996年3月の完成も再度遅れており、早急な完成に向けて、トルコ保健省/ブルサ保健局の努力が望まれる。

センターの完成は遅れているが、ブルサにおけるプロジェクト活動は、市内のヘルス・センター内で活発に進められており、ビデオ教材、スライド教材などの制作も行われている。プロジェクトのカウンターパートも組織的に配置されており、日本人専門家2名も常駐して、活動を支援している。主な活動は、①印刷教材の作成、②セミナーの開催、③ビデオ製作、④スライド製作、⑤IEC調査などが実施されている。夏には日本からの短期専門家による、コンピューター/DTP関連のワークショップなども活発に行われている。

(3) 実験地区-2: シヴァス県での活動状況

1994年12月の調査団と保健省との合意により、トルコ東部地区での先導的実験を行う地区としてシヴァス県が選定された。ブルサがトルコ西部地区(工業・商業地区)を代表するのに対して、シヴァスでの展開は、農牧地区での事例となるものである。

シヴァス県での活動は、主として、家族計画・母子保健関係者の教育・研修を視聴覚教育メディアによって促進することを中心に置いている。このために、ブルサのコミュニケーション・センターとは異なり、研修センターを目指している。シヴァスセンターでは、必要最小限度の視聴覚教材の製作設備は備えるものの、研修機能に重点が置かれている。つまり、このセンターの機能は、シヴァス県の母子保健・家族計画センター、ヘルス・ハウスなどの医師、看護婦、助産婦などの教育に関することを第一義としている。この線に沿って、着実に準備が整えられている。

プロジェクト活動としては、IECに関する、ベースライン調査、KAP調査、メディア接触状況調査、教育/研修のニーズ調査などを早急に行い、これに従ってメディア手法や、教育/研修活動の具体的な計画を立てる必要がある。

(4) 今後の課題

(4)-1 ブルサ・コミュニケーション・センターの職員

これまで、双方が合意した議事録記載の活動を誠実に実施してきている。残念なのは、種々の事情があったとはいえ、当センターの完成が大幅に遅れたことである。完成に向けて、保健省も県保健部も努力を傾けているが、完成はしばらく後のことであろう。この完成の時期に、双方合同による特別な記念行事を企画しておく必要がある。これは、プロジェクトのためばかりでなく、JICA/日本のトルコにおける技術協力を広くアピールする意味においても重要である。

(4)-2 アンカラ・コミュニケーション・センター

議事録の「ATTACHED DOCUMENT」の1-4・(2)に見られるように、先方の人事管理とはいえ、当センターの職員、特に日本で研修を受けてプロジェクトの中核となって働いている職員の配置に関しては十分に考慮されるように要望する。この件に関しては、プロジェクト開始時以来の懸案となっており、改善の兆しが見えるものの、なお一層の努力が必要である。

(4)-3 シヴァスでの基礎調査

東部実験地区としてのシヴァスでの活動を開始するに当たり、活動が本格化する以前に種々の調査を行う必要がある。

(4)-4 日本人専門家の配置

東部地区シヴァスでの活動が始まると、調査、制作、研修、実施、評価などの仕事に対して、日本人専門家の要請は、さらに高まることと予想される。こういう事態に、特に日本人専門家の派遣、配置の問題が生ずることと思われる。アンカラ、ブルサ、シヴァスという3地区での活動に展開に当たり、我が国からの専門家の配置には工夫が必要であろう。また同時に、専門家の専門分野も、議事録記載のものを必要に応じて、「読みかえる」必要が生ずるかもしれない。このような場合には、柔軟な対応が必要であろう。それぞれの地区で、日本人専門家の常駐を希望するであろうが、その調整を工夫するばかりなく、先導地区のトルコ人専門職員の活用を考えることも重要な課題である。

(4)-5 コンピューター関連専門家の派遣

ビデオを中心にした制作に加えて、ブルサ地区やシヴァス地区での実情を考えると、印刷物による活動も重要である。このために、デスクトップ・パブリケーション (DTP) などを進める必要がある。このために、最初の試みが日本人短期専門家2名によって実施されたが、アンカラ、ブルサの両地区で行われたワークショップは大好評であった。

確かに、この分野は現在までのところ、我が国の独壇場だともいえる。この線に沿うセミナー/ワークショップは当分続けられるべきであろう。

(4)-6 その他

今回の調査団の派遣時期が、トルコの国会議員の選挙の時期を控えて、保健省の高官には落ち着いた雰囲気を感じられた。保健省大臣、次官、担当次官補、母子保健・家族計画局長などに面談する機会があり、すべての人々は好意的に対処してくれたが、それでも、不安定な感じは否めなかった。選挙結果によっては、局長クラスまで更迭の対象となるからである。このような時期に当たったので、プロジェクトに関わる事項が十分に議せられたとはいえないが、それでも、関った人々は、当プロジェクトに対して熱心であった。

日本人側の専門家も、誠実に任務を遂行しており、相手側関係者とも密接な協力関係を保っていることを、改めてここに記しておくべきであろう。

3. 実施計画の進捗状況

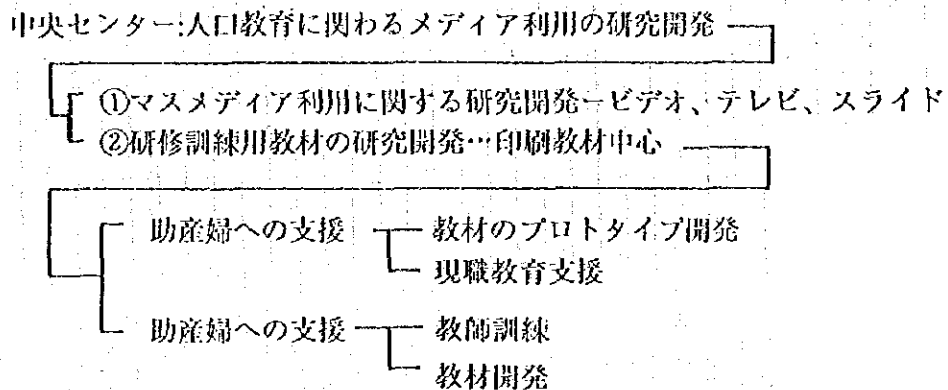
3-1 IEC 分野調査報告

(1) プロジェクトにおけるメディア活動について

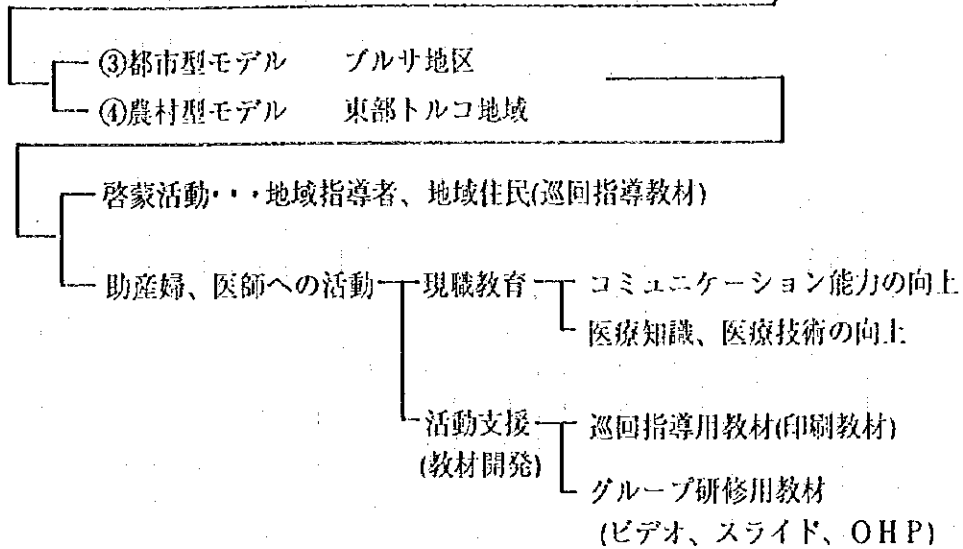
今回の調査ではアンカラ、シヴァス、ブルサの3つのプロジェクトサイトを見ることができた。またアンカラにおいて3サイトの代表者と合同委員会を開催し、今後の方針を打合せすることができた。フェーズIIの活動はアンカラ、ブルサ、シヴァスの3つのセンターでの活動になるが、アンカラは全国的に展開できるメディア制作と2つのセンターのサポート、2つの地域センターはそれぞれの地域の特性に見合ったメディア活動を行う。ブルサではコミュニケーション・センターの建設が遅れているが、完成を待ってビデオ制作が本格化する。シヴァスのセンターは保健教育センターとして、医師、助産婦の教育用の教材制作と訓練が中心となる。

フェーズIIにおける活動についてはフェーズIの反省から①メディア手法をどう位置付け、②助産婦のニーズ調査、③プロジェクト自体のPR、④地域センターの位置付けの4点が重視されねばならないと報告されている。メディア手法に関してはそれぞれの地域における明確な方略の設定が行われていないので、早急に作成する必要がある。助産婦のニーズ調査に関してはブルサでは実施されたのでこれをもとにメディア手法が作成されねばならない。プロジェクトのPRに関しては、カレンダーの作成が行われているが、今後ともプロジェクト紹介ビデオやパンフレットの作成が待たれるところである。地域センターの位置付けについては先に記した通りであるが、今後もシヴァスでの活動を明確にする必要がある。

中央と2つの地域での活動については、つぎのような整理が行われていた。



地域センター・家族計画普及活動のモデル形成とその実施



この活動区分に大きな変更は必要ないが、アンカラ・コミュニケーション・センターの機能として地域センターの支援が必要となっている。これはプロジェクトサイトが3つになったために、日本人専門家を配置しての技術移転が困難なことと、これまでのプロジェクトの成果としてアンカラには十分な技術を持った人材が育成されているからである。それぞれのセンターの立ち上げ時点では日本人専門家の一定期間常駐することも必要だが、基本的にはトルコ側スタッフによるセンターの指導と運営が期待される。

(2) 今後の専門家派遣

1) ビデオ制作

プロジェクトサイトが3地域になることからこれまでのビデオ制作の長期専門家の枠を1名拡大して2名にする必要がある。この専門家はアンカラに常駐し、必要に応じてブルサ、シヴァスに出張する。この点に関しては合同委員会において、特にアンカラが強く要望しているところであった。

2) IEC 専門家

IEC 専門家は地域での調査活動を行いメディア手法を設計することである。ブルサでの調査は終了したが、そのメディア手法の設計とシヴァスでの活動が必要とされる。

そのため継続して派遣する必要があるが、リクルートが困難であれば、短期専門家を継続して派遣することも検討する必要がある。人材としては視聴覚教育を専攻していることが望ましい。

3) コンピューター教育

DTP (デスク・トップ・パブリッシング) に関しては、昨年2名の短期専門家の派遣を行い大きな成果を収め、本年も継続して派遣してほしい旨要請があった。短期専門家を継続して派遣することが必要である。

4) ビデオ技術

ブルサやシヴァスのセンターの完成および機材の導入に伴い、機器の調整やメンテナンスに関する技術の専門家が必要である。この分野もリクルートが困難なため、短期専門家を継続して派遣する必要がある。

5) その他の短期専門家

アニメーション制作、照明、スタジオ制作技術等ビデオ制作の長期専門家でカバーできない部分は積極的に短期専門家を派遣して対応する必要がある。

(3) 供与機材

アンカラおよびブルサ・コミュニケーション・センターには基本的なメディア制作機材は供与済みである。追加機材としては進歩の早いコンピューター関連の機材（編集コントローラー）であろう。シヴァスへの機材は教材制作および研修のための OHP、スライド、コンピューター、ビデオプロジェクター等が考えられる。ビデオ制作機材のグレードとしては、VHS タイプとして、使用目的から考えてアンカラやブルサのようなベータカムは導入しないほうがよい。

3-2 専門家派遣

(1) 長期専門家

氏名	指導科目	派遣期間	赴任時現職
土野 重喜	チーフアドバイザー	1995年7月17日～ 1997年7月16日	なし
角谷 紳一	業務調整	1994年1月22日～ 1997年1月21日	なし
馬部 典佳	IEC 調査	1994年2月20日～ 1996年2月19日	東和大学国際教育研究所
知念 潤	視聴覚技術	1994年7月5日～ 1996年7月4日	日本国際協力センター
丹野かほる	母子保健 ・家族計画	1994年9月26日～ 1996年6月25日	なし
葛木 誠	ビデオ制作	1996年5月30日～ 1998年5月29日	なし

(2) 短期専門家

氏名	指導科目	派遣期間	赴任時現職など
木下小夜子	アニメーション 制作	1994年1月28日～ 1994年3月5日	東京女子医科大学
大谷 勝美	チーフアドバイザー	1994年1月11日～ 1994年6月30日	結核研究所
山城 吉徳	視聴覚技術	1993年11月6日～ 1994年5月10日	結核研究所
大石 千尋	運営指導	1994年4月14日～ 1994年4月27日	JICA医療協力第二課課長
内海 成治	I.E.C.	1994年4月19日～ 1994年5月1日	国際協力専門員
内海 成治	I.E.C.	1995年5月15日～ 1995年5月21日	国際協力専門員
篠原文陽児	データベース作成	1995年8月5日～ 1995年9月10日	東京学芸大学
佐伯 達也	DTP	1995年8月5日～ 1995年9月10日	(株)ボージャー

3-3 研修員受入

氏名	指導科目	研修期間及び場所	所属
Mr.Erol AFSIN	人口家族計画 母子保健	1994年10月25日～1994年11月23日	国立予防衛生研究所
Mr.Ibrahim TOROS	ビデオ制作	1994年8月29日～1995年1月23日	
Mr.Mehmet Faysal OZBEN	視聴覚教育	1995年1月11日～1995年6月5日	
Mr.Murat GONCU	人口教育	1995年10月3日～1995年11月30日	
Ms.Tulay AKGUN	視聴覚メディア制作	1996年1月11日～1996年5月1日	
Mr.Umit SILACI	ビデオ番組制作技術	1995年8月23日～1995年12月20日	
Mr.Cahit YAGMUR	視聴覚技術	1996年5月9日～1996年8月29日	

4. 合同委員会の協議結果

(1) 東部地域のモデルエリアとしてのシヴァス県の正式選定及び同県における活動内容に係る協議

(1)-1 以下の①～③のとおり、シヴァス側の協力体制は整備されている。

① 世銀の援助により完成したコミュニケーション・センターの一部をプロジェクトの拠点として使用可能である。

② 200名程度収容可能なセミナーホールにおいてセミナーが開催可能である。

③ コミュニケーション・センターには30名程度の要員が配置可能である。

(1)-2 制作より、教育・研修活動を中心に展開することとする。

(1)-3 インサーピストレーニング及び一般教育のための視聴覚教育機材の供与が必要である。

(1)-4 長期専門家の常駐は困難であるため、必要に応じて訪問することとする。

また、アンカラのスタッフによる指導も考えられる。

(2) アンカラ、ブルサ県（西部地域モデルエリア）における活動のレビュー及び今後の活動計画。

(2)-1 アンカラ・コミュニケーション・センターにおける視聴覚機材作成等の活動は順調に進んでいる。

(2)-2 同センターの地位を確立するとともに、カウンターパートを適正に配置するよう、申し入れた。

(2)-3 UNFPA, GTZ 等ほかの援助機関との協力プログラムに対する日本側支援の要望があった。

(2)-4 ほかのドナーとの連携は重要であるが、公式に協議する必要がある。

(2)-5 建設中のブルサ・コミュニケーション・センターについては、トルコ側は1993年3月には開所式を予定しているが、内装や外回りの道路等はまだ整備されておらず、間に合うか疑問である。

(2)-6 また、政権の動向如何では、予算手当てが難しい場面が予想される。

(2)-7 今年度調達予定機材の一部は、センターの工事進捗具合によって、来年度調達することもあり得る。

(2)-8 シヴァスが正式にプロジェクトサイトに選定されたことにより、3つのプロジェクトの活動が重複しないよう、調整を図る必要がある。

附 属 資 料

① ミニッツ

MINUTES OF DISCUSSION
BETWEEN THE JAPANESE ADVISORY TEAM
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF TURKEY
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE PROJECT OF PROMOTION OF POPULATION EDUCATION (II)

The Japanese Advisory Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Terumi NAKANO, visited the Republic of Turkey from December 12 to 22, 1995, for the purpose of advising the details of the technical cooperation program concerning the Project of Promotion of Population Education(II) (hereinafter referred to as "the Project").

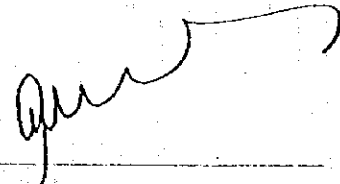
During its stay in the Republic of Turkey, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Turkish authorities concerned in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for successful implementation of the Project.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Ankara, December 19, 1995

中 行 国 際 協 助 機 関

Dr. Terumi NAKANO
Leader,
Advisory Team,
Japan International Cooperation
Agency,
Japan



Dr. Ayşe AKIN
General Director,
Mother-Child Health and
Family Planning,
Ministry of Health,
The Republic of Turkey

THE ATTACHED DOCUMENT

I . GENERAL REVIEW OF THE PROJECT

1. The Team and the Turkish side reviewed the activities already performed and present situation of the Project in accordance with the Record of Discussion signed on September 23, 1993 and the Minutes of Meeting signed on December 14, 1994.

2. Japanese side

- (1) has dispatched 5 long term experts: Chief Advisor, Coordinator, Media Production, IEC Research, Mother-Child Health and Family Planning. (Annex 1)
- (2) has accepted 3 counterparts for training program in Japan. (Annex 2)
- (3) has donated equipment necessary for the activities of the project. (Annex 3)

3. Turkish side

- (1) has confirmed to complete the construction of Bursa Communication Center, and the equipment donated by the Government of Japan is going to be installed by Turkish side. The opening ceremony is expected to be held in March, 1996.
- (2) has assigned 21 counterpart personnel for Bursa Communication Center.

4. Japanese Team requested the Turkish side to

- (1) complete the construction of Bursa Communication Center.
- (2) keep counterparts who are working at Ankara communication Center in appropriate position.

5. Turkish side stated that

- (1) the collaboration of JICA for "The Project for the International Training Center of Reproductive Health, Family Planning and Educational Technology", which has been planned by General Directorate of MCH/FP and UNFPA and accepted by State Planning Organization, is expected.
- (2) the cooperation with the national and international organizations such as GTZ, UNFPA, WHO, UNICEF etc. for all kinds of IEC activities should be maintained.

II . PILOT AREA IN THE EASTERN AREA

1. Both sides agreed that Sivas will be the second pilot area.

2. Activities

In accordance with the R/D, the activities will be

- (1) conducting the survey on the needs and problems concerning family planning and mother-child health education in the area.
- (2) strengthen the activities of family planning and mother-child health education in the area by training health personnel.

Handwritten signature and Chinese characters "中行" (Bank of China).

- (3) upgrading the competence of health personnel in the area in terms of IEC activities in the communities ; in particular, utilization of materials produced in the Project.

3. Equipment

- (1) Audio-visual equipment for IEC workshops and training programs in the Education Communication Center.
- (2) Audio-visual equipment in selected health centers in the Sivas province.

4. Japanese Team requested the Turkish side to allocate eligible and necessary number of Turkish counterparts to the Sivas pilot area, and to establish a close working relationship with the Japanese experts for smooth implementation of project activities.

III. REVISED TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION

1. The Team explained the tentative schedule for the dispatch of Japanese experts, the Turkish counterparts' training in Japan, the provision of equipment and the Japanese mission for the following years.

Both sides agreed that the Tentative Schedule of Implementation of the Project is so reviewed and revised as shown in Table 1 attached.

2. Activities during April 1996- March 1997

- (1) Ankara : The tentative activity plan for Ankara Communication Center is attached as Annex 4.
- (2) Bursa : The tentative activity plan for Bursa Communication Center is attached as Annex 5.
- (3) Sivas :
 - a. Center staff member(s) will be sent to Japan to have a training course, if the conditions are cleared.
 - b. Workshops and seminars on production and utilization of audio-visual materials will be held for health education personnel and midwives in cooperation with Ankara Communication Center.

ANNEX-1

LIST OF JAPANESE EXPERTS DISPATCHED BY JICA

1. Long Term Experts

Field	Name	Period
(1) Chief Advisor:	Mr. Shigeki UENO	July 1995-up to now
(2) Coordinator:	Mr. Shinichi KADOYA	Jan. 1994-up to now
(3) Media Production:	Mr. Jun CHINEN	July 1994-up to now
(4) IEC Research:	Ms. Yoshika UMABE	Feb. 1994-up to now
(5) NCI/FP:	Ms. Kahoru TANNO	Sep. 1994-up to now

2. Short Term Experts

Field	Name	Period
(1) IEC	Mr. Seiji UTSUMI	May 1995
(2) Database	Mr. Fumihiko SHINOHARA	Aug. 1995-Sep. 1995
(3) DTP	Mr. Tatsuya SARKI	Aug. 1995-Sep. 1995

Handwritten signature and initials, possibly 'SARKI' or similar, located in the bottom right corner of the page.

ANNEX-2

LIST OF TURKISH COUNTERPART PERSONNEL SENT AND SCHEDULED TO JAPAN

Field	Name	Period
1. Video Production	Mr.Umit SILACI	Aug.1995-Dec.1995
2. MCH/FP & DTP	Dr.Murat GÖNCÜ	Oct.1995-Nov.1995
3. Media Production	Ms.Tülay AKGÜN	Jan.1996-Apr.1996

YBS

ANNEX-3

LIST OF EQUIPMENT DONATED BY THE GOVERNMENT OF JAPAN IN 1995

1. Vehicle : Minibus Ford (TRANSIT 15), Stationwagon (TEMPRA)
2. Copy Machine, Facsimile Machine
3. Equipment for DTP
Machintosh Computers, Colour Printers, and others
4. Equipment for Inservice-Training
OHP, VTRs built-in TV, TV Projector, VHC Video Camera and others
5. Equipment for Video Production
Lighting Stand, MD Recorder and others
6. Equipment for Slide Production
Developing Units and others
7. Equipment for MA room
Audio Mixer, Video Tape Recorder, Speakers, Multi-Audio Tape Recorder, CD Player, and others
8. Equipment for Conference hall
Microphones, Audio Mixer, Speakers, CD Player and others
9. OHP Transparency Materials

Handwritten signature and initials, possibly "M" and "YH".

ANNEX-4

Tentative Activity Plan for Ankara Communication Center in 1996

Beside the original activities stated below, Ankara Communication Center will mainly guide and support all Project activities to be carried out in Bursa and Sivas Pilot Areas.

1. VIDEO PROGRAM PRODUCTIONS :

- * Video program production activities will be continued as scheduled with General Directorate.
- * All video programs will be distributed to the health institutions and local TV stations.

2. TRAINING ACTIVITIES :

- * Training in Japan ; 3-4 selected persons
- * Teacher's Training ; Will be done upon request.
- * Training of Health Staff ; Workshops will be held.
- * Student's Training ; Will be continued.
- * Training of Sivas Health Directorate Staff ; Being planned.
- * Training for health staff from ECO countries ; Will be performed if approved.

3. PRINTED MATERIAL PRODUCTION :

- * The handbook for educational material production and effective utilization will be renewed.
- * Project Introduction Pamphlet will be prepared.
- * Calendars for 1997 will be prepared.

4. SLIDES AND TRANSPARENCIES :

These educational materials will be prepared and produced according to the training needs.

5. COOPERATION WITH NATIONAL AND INTERNATIONAL ORGANIZATIONS :

Handwritten signature and initials
IP 42

ANNEX-5

TENTATIVE ACTIVITY PLAN FOR BURSA IN 1996

1. PRINTED MATERIALS :

- a) Flip-Chart(2 kinds), b) Hand type Cards(2 kinds), c) MCH/FP Manual Series, d) Poster(1 kind), e) Brochures, f) Calendar(3 kinds), g) To provide information for project activities with Health Directorate Magazine. h) To prepare JICA Project newsletter twice per year.

2. SEMINARS :

- a) Seminars for educators.(ie vocational high school teachers,health educators in rural areas) ; About communication techniques and preparing training materials. Also inservice training seminars for Bursa Project staff in Ankara.
- b) To inform doctors and health staff medical improvements through seminars.
- c) Support for community education seminars of Health Directorate.

3. VIDEO PROGRAMS :

Production of video programs, and training of the staff same time.

4. SLIDE PROGRAMS :

Multi slide programs (2 kinds)
To modify and upgrade slide programs of MCH/FP section,Health Directorate(about FP methods)

5. IEC ACTIVITIES :

Pretesting of all educational materials which will be produced by Bursa Project.
Post-testing of all educational materials after the distribution.
Make pretests & post-tests before and after all seminars.
Control of all training activities in Health Centers and MCH/FP Centers.
Collect data about sociodemographic information and research about the health needs of community.

6. OTHERS

Support Bursa Health Directorate needs (such as special days & weeks) according to their annual plan.

Tentative Implementation Plan for 1996

Table 1

	95/4	5	6	7	8	9	10	11	12	97.1	2	3
Goals	<p><Yokohama> 1) Video Production (for the public) 2) Video Production (for training purpose) 3) Planning and Implementation of IEC Seminar</p> <p><Dursa> 1) Development of Educational Materials 2) Implementation of IEC Training for the personnels to promote health family planning activities 3) IEC Survey</p> <p><Siwas> 1) Base-line Survey 2) Workshops on Production of audio-visual materials for the personnels to promote healthy family planning</p>											
Mission	Advisory Survey Mission											
Experts	<p>L O Y G T E R M</p> <p>1) Chief-Advisor 2) Coordinator 3) Media Production 4) NCH/PP 5) IEC Audio-visual Education 6) Educational Materials Development for PP 7) Media Production 8) 9) 10)</p> <p>S H O R T T E R M</p> <p>1) Media Production 2) IEC Survey 3) IEC Survey 4) DPP 5) Data Processing 6) Equipment Maintenance 7) Animation Production 8) Video camera 9) Lighting Technique 10)</p>											
Trainees	<p>1) Video Production 2) Audio-Visual Technology 3) Audio-Visual Technology 4) NCH/PP 5)</p>											
Equipments	Equipments necessary for the activities											

伊野

JICA